

# 国立病院機構 岩国医療センター

齋藤 大治



## はじめに

岩国医療センターは、隣が広島県大竹市という山口県の東端、岩国市に立地しています。岩国市は平成18年秋の大合併により、人口約16万人となりましたが、この地域の人口は年々減少傾向にあると同時に、急速に高齢化が進み、現在では高齢化率（65歳以上の人口比）が24%に達し、全国平均の19%をはるかに凌ぐ高齢化率となっています。このため、入院・外来ともに高齢者が目立ち、かつては殆んど診療することの無かった、90歳代の患者も今では珍しくありません。

## 特徴と現況

岩国医療センターは、580床、24診療科を有し、この地域の中核的病院として、岩国市は勿論、広島県西部、高根県南部から多数の患者を受け入

れています。岩国市およびその周辺には、200床程度の病院は幾つかあるものの、他には所謂総合病院はなく、当医療センターが最終医療機関として、重症患者や難治性疾患診療のセンターとなっています。特に救急医療は活発で、平成17年度の救急患者は22,300名余り、救急車の搬送回数も4,500回に達しています。この数字は山口県内の他施設の救急患者数が10,000名前後であることを考えるとダントツに多く、しかも更に増加傾向を示しており、平成18年度の救急受診者は、23,000名を超える勢いです。また、周辺に急性の循環器疾患を診療できる施設が無いこともあり、急性心筋梗塞や狭心症、急性心不全、大動脈疾患の殆んどすべて、脳血管障害の大部分が当院に集中します。ガン診療の面でも、手術、化学療法、放射線療法の全てに対応できる施設は他には無く、肺癌を除け

ば殆んどどのガンが当院に集まっています。従って、症例の種類、数ともに極めて豊富で、救急も含めて、若い医師にとっては研修材料の宝庫といえます。現在、当医療センターには72名の定員内医師、12名のレジデント、13名の研修医が頑張っています。しかし、平成19年度の新研修医は僅か1名で、研修医に選ばれない理由は何なのか、病院を挙げて検討し、改善を図ろうとしています。

当院もDPCの導入、平均在院日数の短縮など、時代の流れに後れまいと頑張っており、各診療科とも大忙しの状態が続いています。このため、殆んど診療科でマンパワー不足を感じており、少しでも医師の増員をしたいと思っています。幸い、木俣教授のご好意により、平成19年3月からは当院に大望の形成外科が開設されます。広島市から新山口市までの間は、従来形成外科の空白地帯で、形成外科の開設は地域の願望でもあっただけに、医師会員を初め、多くの方から歓迎されています。

## 今後の展望

岩国市には米軍（海兵隊）の基地があり、家族も含めて、現在約6,000名の米軍関係者が住んでいます。各種報道でご存知の方もいると思いますが、日本政府および米軍は、厚木基地（神奈川県）の一部機能を岩国基地に移転する計画を公表しており、これが実現すると、米軍関係者は10,000人を越えることとなります。しかし、基地内には診療所はあるものの、病床を持っておらず、現在でも入院患者の多くは当院が受け入れています。当医療センターは現在建物が老朽化し、病院の新築を計画していますが、その際、米軍関係の医療をより積極的に担当するべ

く、各方面と交渉しています。この計画には米軍関係者も強い関心を示し、平成18年初夏から秋にかけて、SanDiego から米軍西半球の医療責任者、施設・整備担当者等が次々と当医療センターを訪れ、計画の具体化について相談しています。これが実現すれば、新病院は米軍医師が関

与する病棟を有し、我々日本人医師と共同診療することになります。数年後には（新病院の完成は約5年後を予定）米国の医療を実際に経験し、米国医師と discussion し、共同で患者を治療する、日本では他に例を見ない病院になると思っています。医療の世界は急速に変化しています。

当院もこうした新しい試みを取り入れ、時代を先取りした病院への脱皮を目指して頑張っています。

---

平成18年12月受理  
〒740-8510 岩国市黒磯町2-5-1  
電話：0827-31-7121 FAX：0827-31-7059  
E-mail：saito@iwakuni-nh.go.jp  
http://www.iwakuni-nh.go.jp